第3講　動詞

PART1　活用の種類／仕方・一段活用の動詞

動詞

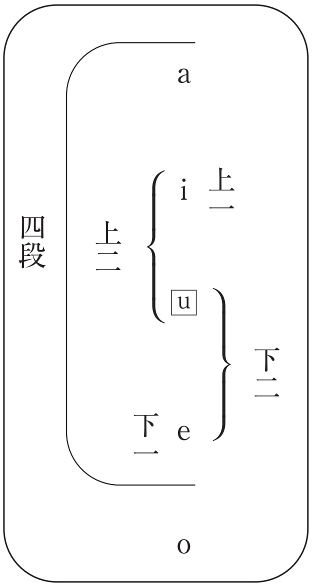
基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
読む						
見る						
咲く						
着る						

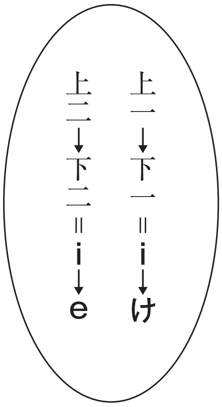
★活用の種類

四段活用・上一段活用・上二段活用・下一段活用・下二段活用
カ行変格活用・サ行変格活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用

★活用の仕方　その①

活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
四段活用	a	i	u	u	e	e
上一段活用	i	i	iる	iる	iれ	iよ
下一段活用	け	け	ける	ける	けれ	けよ
上二段活用	i	i	u	uる	uれ	iよ
下二段活用	e	e	u	uる	uれ	eよ





★活用の仕方　その②

活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
カ行変格活用	**こ**	**き**	**く**	**くる**	**くれ**	**こ(よ)**
サ行変格活用	**せ**	**し**	**す**	**する**	**すれ**	**せよ**
ナ行変格活用	**な**	**に**	**ぬ**	**ぬる**	**ぬれ**	**ね**
ラ行変格活用	**ら**	**り**	**り**	**る**	**れ**	**れ**

★活用の種類の見分け方　その①「覚えておくべきもの」

〔ハ行〕〔　　行〕〔カ行〕〔ナ行〕〔マ行〕〔　　行〕

上一段活用＝「**干(ひ)る**」「**射る**」「**鋳(い)る**」「**着(き)る**」「**似(に)る**」「**煮(に)る**」「**見(み)る**」「**居る**」「**率る**」

※**上一**番の子ばかり「　　　＋　　　」

（「率**ゐる**」「顧**みる**」などもある。）

下一段活用＝「**蹴る**」

〈Memo〉

第3講　PART1　確認問題

①「書く」という動詞は四段活用である。その活用の仕方として適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　書か／書き／書く／書く／書け／書け
イ　書き／書き／書く／書くる／書くれ／書きよ
ウ　書け／書け／書く／書くる／書くれ／書けよ
エ　書き／書き／書きる／書きる／書きれ／書きよ

②文章の空所には、「いぬ（往ぬ）」という動詞が入る。活用形として適切なものを、次の中から一つ選べ。

「かふちへ□顔にて見れば、…」

ア　いぬ　イ　いな　ウ　いぬる　エ　いぬれ　オ　いに　カ　いね

③傍線部の動詞について、活用の種類として適切なものを、次の中から一つ選べ。

「かの典薬の助は蹴られたりしを…」

ア　四段活用　イ　下一段活用　ウ　上二段活用　エ　カ行変格活用

④　傍線部と活用の種類が同じ動詞を、次の中から一つ選べ。

「やうやう夜も明けゆくに見れば率(ゐ)て来(こ)し女もなし。」

ア　咲く　　イ　来　　ウ　おはす　　エ　居る

⑤　傍線部の動詞について、活用の種類が四段活用でないものを、次の中から一つ選べ。

ア　立蔀(たてじとみ)、透垣(すいがい)などの乱れたるに、…。

イ　「むべ山風を」など言ひたるも、…。

ウ　人にも語らず、「習はむ。」とも思ひかけず、…。

エ　おぼろげの紙はえ張るまじければ、…。

第3講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 四段活用の仕方は、「a／i／u／u／e／e」である。よって、正解はア。

② ナ行変格活用の動詞は、「死ぬ」・「往ぬ」・「去ぬ」である。空欄の下には体言が続くことから、連体形にする。よって、正解はウ。

③ 下一段活用の動詞は、「蹴る」のみである。よって、正解はイ。

④ 上一段活用の動詞は、「干る」・「射る」・「鋳る」・「着る」・「似る」・「煮る」・「見る」・「居る」・「率る」である。よって、正解はエ。

⑤ 「ず」をつけて考える。イ「言はず」、ウ「語らず」、エ「張らず」となるので四段活用である。ア「乱れず」となるので、下二段活用。よって、正解はア。

〔解答〕

①　ア
②　ウ
③　イ
④　エ
⑤　ア